



## 【特別支援学校のセンター的機能】

### ～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達の気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

### 4～1月までの相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	その他	計
件数	189件	434件	43件	8件	18件	692件

(その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼)



専門アドバイザーの仕事を紹介します。

学校や園に訪問すると、先生方が一生懸命お子さんに対応しているのに、うまくいかなくて困っているなど感じる場面が多く見られます。

3歳になったばかりのA君の担任からの相談内容は以下の通りでした。

A君は保育園に通う元気いっぱいの男の子です。日々の流れは分かり、上履きを履いたり、トイレで排尿したりすることはできます。しかし、「トイレ行くよ」と言葉かけをすると笑って走り回ってしまい、追いかけてもらうのを楽しみにしているとのことでした。

担任の願いを聞くと、「担任がそばにつかなくても自分で考えて行動して欲しい」と答えが返ってきました。

実際に観察すると、トイレでの排尿や帽子をかぶる行動自体は特に問題なくできます。しかし、「トイレ行くよ」や「帽子かぶるよ」と声を掛け、担任が近づくと、A君が友達の間を抜けて遠ざかりながら、嬉しそうに担任の方を振り返ります。すると、担任はA君を早くトイレに行かせようと追いかけます。ますます、A君は逃げます。

このような場面はいろいろなところで見られませんか。

人の行動が増えるのは因果関係があります。A君が少し離れた担任から声を掛

けられた場合（条件）、追いかけて逃げたら楽しかったという経験（結果）が、A君の「逃げる」という問題行動（行動）を増やしているのです。

この問題行動を減らすためには、まず、結果を操作します。つまり、A君が逃げてでも担任が追いかけないようにします。担任に追いかけて、他児が皆トイレに行ってしまうと、慌てて自分もトイレに向かう子がいます。

A君にその方法を適用すると、教室内のものを触って過ごし、トイレから戻ってきた友達とふざけっこを始めました。逃げるという行動は減りましたが、トイレに向かうという行動は増えません。

そこで、次は「少し離れたところから担任が声を掛ける」という条件を操作します。担任が手をつないでトイレにつれて行き、手を離しても大丈夫な場面まで誘導してから、「トイレ行ってきて」と声を掛けます。もともと、トイレまで行けば、1人で排尿できるので、成功します。「えらい」と言って手にシールを貼ってあげると、喜びました。シールでなくても、A君が喜ぶことなら、頭をなでてもいいし、「かっこいい」と言葉で褒めてもいいし、次の読み聞かせの本を選ばせても構いません。

つまり、手をつないだ場面で声を掛けるという条件に変えたことで、トイレに行くという行動が遂行され、結果として褒められる、シールがもらえるなどのA君にとっては嬉しいことが起こるようになりました。その結果、A君はすんなりトイレに行くようになり、そのうちにシールを見せれば、トイレに行くようになりました。

言葉で「～して」と声を掛けて子どもが行動できるなら問題ありません。でも、言葉だけではうまくいかないときに、どうしても教師は強く言うなどの言葉に頼ってしまいます。言葉は楽だからです。でも、言葉かけで行動できないときには教師の行動を変えることが大切です。やり方は様々ありますが、そこには教師の工夫が必要です。

指導がうまくいかないときには、一度、教師自身の行動を振り返ってみると良いかもしれませんね。

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。

お待ちしております。



群馬県立しrogane特別支援学校  
専門アドバイザー 尾岸 純子  
電話 027-268-6111  
FAX 027-268-6113  
mail shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp